

精神一到、何事が成らざらん 精神一到、何事不成 (朱子語類)

精神を集中して行えば、どんな難事でも成し遂げられないことはない。

研究室訪問



子ども学科 教授 潮谷 光人

大学では、こども家庭福祉や相談支援研究です。現場の支援を受けていることが多い経験から、子どもや障害者の方の生活や活動の支援について実践したいと思っています。

特徴的な事件を犯した子どもたちを描いた漫画で、虐待回避型非行な子どもたちの背景を知る上で参考になると思いました。

好きなジャンルは？

相談援助や事例検討の方法に関する分野です。いまま定期的に困難事例の検討会を実施していますし、実際に相談対応をすることもあります。その際の知識や技術の修得に役立つ内容のものは、できるだけ買うようにしています。複数で集中した相談対応を行うオープンダイアログの手法に関するものは、とても刺激を受けて一時期随分集めました。

記憶の中、最初に自分で買った本は何でしょうか。

漫画だと思えます。ただ、覚えていません。キン肉マンや北斗の拳、うる星やつらのどれかを小学校2年生ぐらいに買ったように思います。小説だと赤川次郎や星新一などを小学校5年生ぐらいから読んでました。自分で買ったかは覚えていません。年の離れた兄の買う本を読むことも多かったですし、育った施設の中に図書館もあったため、読む本には苦労しなかったです。

最近買った本は？

ゼミの学生に読みやすいようにと漫画の「ケーキの切れない非行少年たち」を買いました。少年院にいる



障がい者の生活支援の流れが整理された本です。

時々読み直す本はあるでしょうか。

横田弘の「障害者殺しの思想」は何度か読み返しています。横田は、脳性麻痺の障がい者で、70年代の障がい者運動を強烈な主張と行動で盛り上げた人物です。優性思想や分離教育に対する批判を行動として示してきた歴史は、いまの時代も大切にしなければならぬと考えています。自分の行動や考えが保守的になったときに、読み返すことで勇気をもっています。

もし蔵書の中から一冊だけ選ぶなら、どの本を選びますか。その理由は何ですか。

石川准の「アイデンティティゲーム 存在証明の社会学」です。この本を手にした当時は、社会福祉を学ぶことをやめようと考え、距離を取っていた時期でしたが、障がい学で有名な石川准先生の語るアイデンティティ論に感銘を受け、もう一度社会福祉や社会学を勉強したいと考えたようになった本です。

読書の醍醐味は？

自分のように人生に影響を与えるような一冊に出会うということでしょうか。自分の思想や言葉もさまざまな本からつくられていてと感じることも多いです。それと気分転

換にも活用できると考えています。自分はレコードの収集が趣味ですが、レコードの解説本を読むだけで音楽を聴いているような気分になりますし、アーティストの背景を知るためにはインターネットより本の方が役に立つことが多いです。またアート関連の書籍なども大判の本で見ると迫力があり、見るだけでわくわくして楽しい時間となります。

座右の銘をお教えください。

「頼まれごととは、試されごと」という実業家の中村文昭の言葉です。自分の専門性や能力にとらわれず、頼まれたらひとまずやるという姿勢が大切だと考えています。

学生にぜひ読んでもらいたい本は？

いろんな学生の趣向もあるため、これと特定することは難しいです。自分の興味関心に従い、多くの本を読んでほしいです。

読書について、学生、特に新入生へのアドバイスをお願いします。

雑誌でも小説でもいいので、常にかかっているとこの習慣が大切だと思つていきます。文章にいつも触れることが書く力をつけてくれますし、読むこと書くことストレスを減らしてくれると思います。

読む習慣をつけてみましょう！



2021年度 図書館開催イベント

手作り絵本 コンクール

2021年度、図書館のイベントとして初めて開催することになった「手作り絵本コンクール」では、学生の皆さんが創意工夫し一生懸命に製作された手作り絵本が43作品エントリーされました。

入賞作品を選ぶのは学生の皆さんの1票!! 展示期間に多くの学生の皆さんが絵本を閲覧し、気に入った作品にWebで投票を行いました。

最優秀賞には、実践保育学科2年の磯田まどかさん『さんちゃんのオムラ

イス』が選ばれました。12月23日(木)に表彰式が行われ、入賞した皆さんに賞状と副賞が授与されました。入賞された皆さん、おめでとうございます。

多くの皆さんにエントリーしていただき、また、投票に参加していただき、ありがとうございました。



最優秀賞



実践保育学科2年 磯田 まどかさん
『さんちゃんのオムライス』

優秀賞



実践保育学科2年 山田 逸子さん
『なにがみえる?』

佳作



実践保育学科2年 大西 千捺さん
『ぼく・わたしのすきないろ?』

特別賞



こども学科3年 木虎 莉奈さん
『ポケットぼん』

特別賞



実践食物学科2年 人見 友菜さん
『ぎゅっ。』

入賞おめでとうございます



学生Web選書

2021年10月19日(火)から11月19日(金)の間、学生Web選書を開催しました。

昨年に引き続き、Webサイトを利用し選書することにしました。

10名の学生が参加、56冊の選ばれた図書は「学生選書コーナー」に並んでいます。貸し出しもできますので皆さんぜひご利用ください。



参加者のコメント

図書館に入れる本を自分で選ぶ機会があるなど知らず、今回、参加できて良かったです。

また、自分が選んだ本を図書館を利用する他の学生さんが読んでくれるのも嬉しく、楽しみです。

実践食物学科2年 寺本 早紀さん



先生の推薦
新着図書

こども学部 こども学科 渡邊 由之 教授

『臨床の砦』

著者：夏川 草介(出版：小学館、2021年4月23日)

誰にでも、その人だけの日常がある。普段の生活と言ってもよい。誰もが過ごす普通の生活は、途絶えることのない不連続のものではない。それを、今を生きる私たちは嫌というほど思い知らされた。新型コロナウイルス感染症という災禍によって。

『臨床の砦』の当事者・主人公は、医療従事者である。それも新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れ、その治療にあたる医師たちの物語である。この作品は、日常が破綻する瞬間をあぶり出すだけでなく、目を凝らさないと見えない世界をも垣間見せる。それは、当事者のリアリティである。搬送中にアイソレータという隔離袋に入る患者、その呼吸や酸素飽和度、医師たちの緊迫感やバックヤードでの会話、院内感染の恐れ、その中でも患者と家族の想いを汲み取ろうとする努力、数字を強調する報道からは伝わらないようなリアリティが、この作品にはある。

著者は、医師兼作家であるため、その描

写は限りなく現実に近い。作中での緊急事態宣言の発出も2021年1月7日で、現実と同じである。読後、印象に残った場面は、院内感染が拡がりを見せたシーンであった。そこに主人公のこんなセリフがある。

「原因は、看護師の不注意や、気の緩みにあるのではなく、感染対策さえ十分に履行できないほどの激務を現場に強い我々にあると思います」

いま、オミクロン株が猛威を振るう。感染者数は過去最高を更新する日々である。医療従事者の激務を慮ることしかできないが、何が大事なのか、それを考える余裕を奪うのも災禍の負の側面であると、思い知らされた。さて、我々はどうか。



(請求番号 913.6/N58)



(請求記号 596/Y19)

実践食物学科 濱田 尚美 准教授

『菌とともに生きる「発酵暮らし」』

著者：山田 奈美
(出版：家の光協会、2021年8月20日)

健康に良いと注目されている「発酵食品」。それぞれの食材が微生物の働きで栄養を増し、深い旨味を感じさせる食品に変化していきます。ゆったりとした時間を過ごせるようになったら、自然に囲まれた生活空間で、自分の為に作った「発酵食品」でお料理をしたい…。そう思わせてくれる1冊です。

実践保育学科 後藤 由美 講師

『教師という接客業』

著者：齊藤 浩
(出版：草思社、2020年7月3日)

近年では、教師が絶対的存在ではなくなった。

ある公立学校の校長は、「学校は従来のような聖域ではなく、先生も聖職者と見られている時代ではありません。子どもや保護者が大いに満足できるように、サービス業としての視点も大事にしてください。(後略)」と言ったという。

いじめ、不登校、コンプライアンスの強化、保護者同士のSNS…そんな中、どうやって児童・生徒の将来のための教育ができるのか、機能不全に陥りかけている学校の実態が生々しく綴られている。



(請求記号 374.3/Sa25)

窓

第27号

2022年4月1日発行

編集・発行

東大阪大学・
東大阪大学短期大学部
附属図書館

大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1
TEL 06-67882-2837
FAX 06-67882-2839
<http://www.higashiosakac.ac.jp/~library/>

データでみる図書館

2021年12月末現在のデータ

- ・ 図書(和書) 77,677冊
- ・ 図書(洋書) 6,671冊
- ・ 視聴覚資料 3,475タイトル
- ・ 雑誌 621タイトル

2021年1月～12月の利用数

- ・ 貸出冊数 782冊
- ・ 入館者数 1,657人
- ・ アンデルセン絵本コレクション
- ・ 35カ国・地域・25言語数 416冊